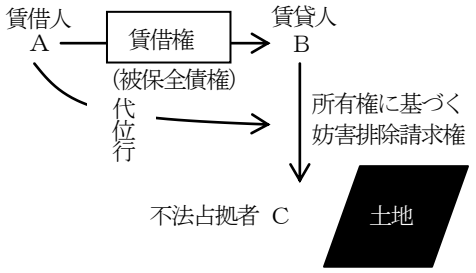
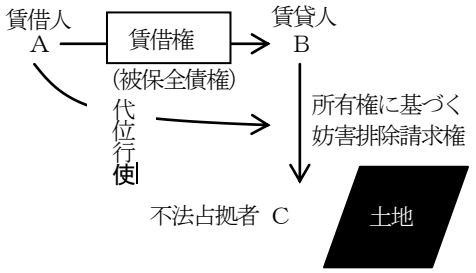
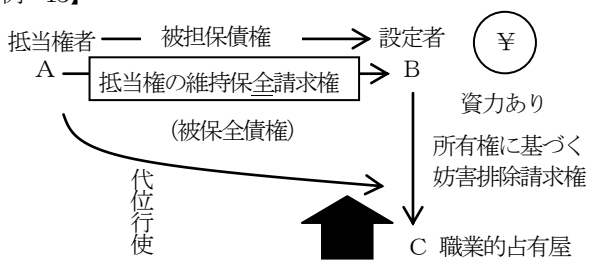
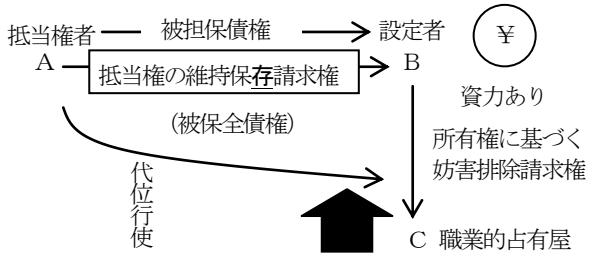
『21Ｋマスター　民法Ⅱ』(KU20022)

訂正表

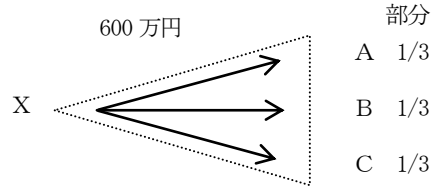
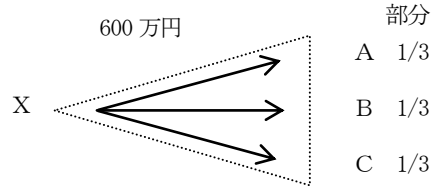
2022年02月04日現在

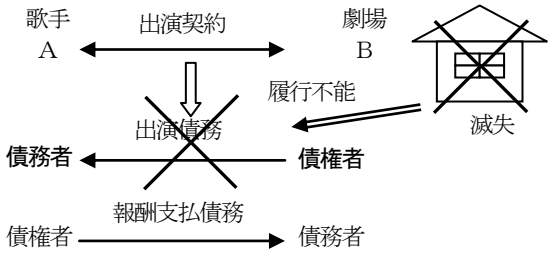
ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
P. 386	上から 10 行目	誤	Ｂは，不能となった給付（乙建物）を選択し，	2020/06/19
		正	Ｂは，不能となった給付（甲建物）を選択し，	
P. 393	5 (2)① 上から３行目	誤	また，不能であるときを含む。Ａが不動産を	2020/06/19
		正	また，Ａが不動産を	
P. 400	3 (1)② 上から４行目	誤	法定利率以上の実損害が	2020/10/23
		正	約定または法定利率以上の実損害が	
P. 405	② 下から１行目	誤	債務者に酷だからである	2021/10/01
		正	債権者に酷だからである	
P. 422	【例－12】	誤	【例－12】  Ａが賃借している物件を第三者Ｃが不法占拠しているのに，賃貸人Ｂが所有権に基づく妨害排除請求権を行使していない。 ↓ 賃借人Ａは，賃借権を被保全債権として，賃貸人ＢのＣに対する妨害排除請求権を代位行使することができるか。	2020/06/19
		正	【例－12】  Ａが賃借している物件を第三者Ｃが不法占拠しているのに，賃貸人Ｂが所有権に基づく妨害排除請求権を行使していない。 ↓ 賃借人Ａは，賃借権を被保全債権として，賃貸人ＢのＣに対する妨害排除請求権を代位行使することができるか。	

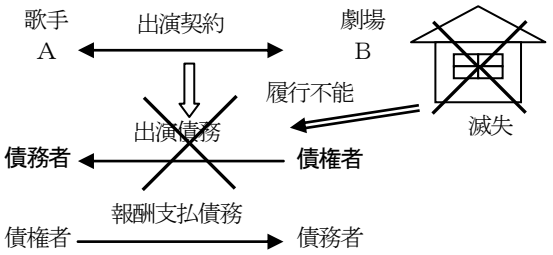
<table>
<tr><td rowspan="2">P. 423</td><td rowspan="2">【例－13】</td><td>誤</td><td>【例－13】
 

抵当権者Ａの抵当不動産は，職業的占有屋であるＣによって占有されており，このままでは抵当不動産の交換価値の実現が妨げられ，抵当権者Ａの優先弁済権の行使が困難となるような状態である。しかし，抵当権設定者であるＢは何の措置もとっていない。
↓
ＡはＢに対する抵当権の維持保全請求権を被保全債権として，Ｃに対するＢの妨害排除請求権を代位行使することができるか。</td><td rowspan="2">2021/10/01</td></tr>
<tr><td>正</td><td>【例－13】
 

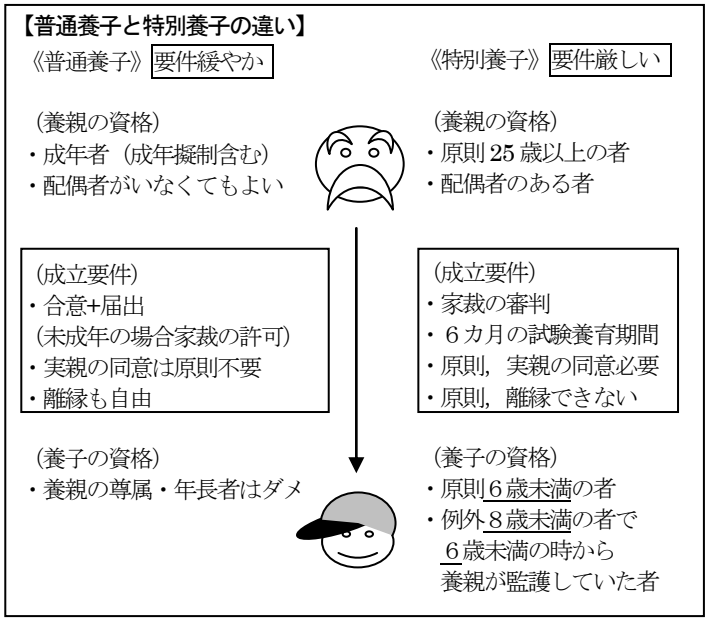
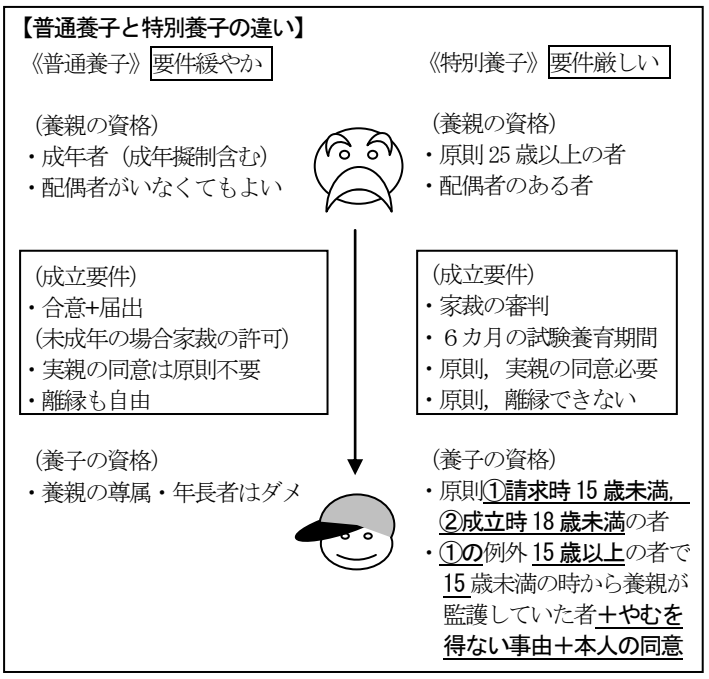
抵当権者Ａの抵当不動産は，職業的占有屋であるＣによって占有されており，このままでは抵当不動産の交換価値の実現が妨げられ，抵当権者Ａの優先弁済権の行使が困難となるような状態である。しかし，抵当権設定者であるＢは何の措置もとっていない。
↓
ＡはＢに対する抵当権の維持保存請求権を被保全債権として，Ｃに対するＢの妨害排除請求権を代位行使することができるか。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 423</td><td rowspan="2">(3)
下から３行目</td><td>誤</td><td>抵当権の維持保全請求権を被保全債権として</td><td rowspan="2">2021/10/01</td></tr>
<tr><td>正</td><td>抵当権の維持保存請求権を被保全債権として</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 423</td><td rowspan="2">側注
上から１行目</td><td>誤</td><td>抵当権の維持保全請求権</td><td rowspan="2">2021/10/01</td></tr>
<tr><td>正</td><td>抵当権の維持保存請求権</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 430</td><td rowspan="2">(2)①(a)
下から３行目</td><td>誤</td><td>詐害行為時と取消判決時（正確には事実審の口頭弁論終結時）</td><td rowspan="2">2020/06/19</td></tr>
<tr><td>正</td><td>詐害行為時と取消判決時（正確には事実審の口頭弁論終結時）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 434</td><td rowspan="2">上から５行目</td><td>誤</td><td>代物弁済はその方法が債務者に義務に属しない行為にすぎず</td><td rowspan="2">2020/06/19</td></tr>
<tr><td>正</td><td>代物弁済はその方法が債務者の義務に属しない行為にすぎず</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 445</td><td rowspan="2">④(a)
上から２行目</td><td>誤</td><td>受取証書の交付を請求できる（486 条）</td><td rowspan="2">2021/10/01</td></tr>
<tr><td>正</td><td>受取証書の交付を請求できる（486 条１項）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 461</td><td rowspan="2">1
上から２行目</td><td>誤</td><td>債務差の負担した給付に代えて</td><td rowspan="2">2020/06/19</td></tr>
<tr><td>正</td><td>債務者の負担した給付に代えて</td></tr>
</table>

P. 465	③(b) 下から２行目	誤	**期限の利益・喪失等により，その弁済期が現実に到来していることを要する**（最判平 25. 2. 28）。	2022/02/04
		正	**期限の利益<u>の放棄</u>・喪失等により，その弁済期が現実に到来していることを要する**（最判平 25. 2. 28）。	
P. 471	表 上から４行目	誤	○ （受働債権の差押前に取得した債権を自働債権とする場合）又は（受働債権の差押後にした自働債権であるが，その発生原因が差押前にある場合）	2020/10/23
		正	○ （受働債権の差押前に取得した債権を自働債権とする場合）又は（受働債権の差押後に<u>**取得**</u>した自働債権であるが，その発生原因が差押前にある場合）	
P. 485	【例－１】	誤	【例－１】  A，B，CがXに対して 600 万円の連帯債務を負担した場合（各自の負担部分は平等），XはCに対し，その負担部分 <u>100</u> 万円を超えて，600 万全額を請求できるか問題となる。また，300 万円ならば，どうか。	2020/10/23
		正	【例－１】  A，B，CがXに対して 600 万円の連帯債務を負担した場合（各自の負担部分は平等），XはCに対し，その負担部分 <u>**200**</u> 万円を超えて，600 万全額を請求できるか問題となる。また，300 万円ならば，どうか。	
P. 491	(3)① 下から４行目	誤	悪意のAは債権者Xに <u>100</u> 万円	2020/06/19
		正	悪意のAは債権者Xに <u>**200**</u> 万円	
P. 491	(3)① 下から２行目	誤	AはCの負担部分 <u>100</u> 万円	2020/10/23
		正	AはCの負担部分 <u>**200**</u> 万円	
P. 546	$\boxed{5}$(1)③	誤	弁済と**受取証書の交付**（486 条）	2021/10/01
		正	弁済と**受取証書の交付**（486 条<u>**１項**</u>）	

<table>
<tr><td rowspan="2">P. 553</td><td rowspan="2">【例－４】</td><td>誤</td><td>【例－４】
 

歌手ＡがＢ劇場との間で出演契約を締結したが，大地震により劇場が全壊して，Ａの出演が不可能となった。
↓
Ｂの報酬支払債務は消滅するかが問題となる。</td><td rowspan="2">2020/10/23</td></tr>
<tr><td>正</td><td>【例－４】
 

歌手ＡがＢ劇場との間で出演契約を締結したが，大地震により劇場が全壊して，Ａの出演が不可能となった。
↓
ＢはＡに報酬を支払わなければならないか。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 553</td><td rowspan="2">3 (2)
下から３行目</td><td>誤</td><td>ＡがＢ劇場の講演日に</td><td rowspan="2">2021/10/01</td></tr>
<tr><td>正</td><td>ＡがＢ劇場の公演日に</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 558</td><td rowspan="2">上から９行目</td><td>誤</td><td>就業規則・労働契約のように労働者の能力・人格・能など相手方の個性に</td><td rowspan="2">2020/06/19</td></tr>
<tr><td>正</td><td>就業規則・労働契約のように相手方（労働者）の個性に</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 593</td><td rowspan="2">上の表
下から１行目</td><td>誤</td><td>②たばこのヤニ・臭い。日常の不適切の手入れ</td><td rowspan="2">2020/06/19</td></tr>
<tr><td>正</td><td>②たばこのヤニ・臭い，日常の不適切な手入れ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 630</td><td rowspan="2">1
上から１行目</td><td>誤</td><td>当事者の一方（受寄者）がある物を保管することを相手方（寄託者）に委託し</td><td rowspan="2">2020/06/19</td></tr>
<tr><td>正</td><td>当事者の一方（寄託者）がある物を保管することを相手方（受寄者）に委託し</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 638</td><td rowspan="2">(6)③</td><td>誤</td><td>組合代理）（他の組合員を代理して組合の業務を執行すること）</td><td rowspan="2">2020/06/19</td></tr>
<tr><td>正</td><td>組合代理（他の組合員を代理して組合の業務を執行すること）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">P. 707</td><td rowspan="2">図</td><td>誤</td><td> 
</td><td rowspan="2">2020/10/23</td></tr>
<tr><td>正</td><td> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P. 728</td><td rowspan="2">2 (3)③
上から２行目</td><td>誤</td><td>無効原因（意志無能力，方式違反，熟慮期間経過後など）</td><td rowspan="2">2021/10/01</td></tr>
<tr><td>正</td><td>無効原因（意思無能力，方式違反，熟慮期間経過後など）</td></tr>
</table>

※「掲載日」は，上掲訂正情報がＬＥＣホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(http://www.lec-jp.com/koumuin/info/teisei/)に掲載された日付です。